拾遺都名所圖會

Rap. 2

祇園前掛石
祇園香煎
螢嶋
泰山府君
祇園女御
崇徳馬場　宮辻
山之井
媼堂
地藏院
九重丹楓
日親廟塔
同神事
二軒茶屋　合餅　渡水　阿蘭陀人休息
直菖原　長樂寺碑銘
千文萩
知恩院補遺
捨山王
鷲尾
桂橋寺
藻蟲菴旧趾
大日堂
清水隨求堂
秋葉社　獅子口　要石　覺明水
通妙寺　妙見社
歌仏堂　一名大雅堂　墓碑
疫伏社
雲居寺旧跡
靈山寺
鼠堂屋敷
仲光院
尾振谷
六條院陵
良經公碑
龍首
神輿洗
太子水
芭蕉堂　南無庵　芭蕉翁碑
蓮華院舊蹟
高甚寺　補遺　天滿宮　萩の花
舉白堂旧蹟
經書堂
寶徳寺
南藏院
延年寺辻子
法圀寺

FREER GALLERY OF ART

袋中菴
阿佛家
城東寺
專定寺
泉涌寺 諸頭
蕗橋
万壽寺
法性寺旧蹟 同觀音
晴明墓
極樂寺
勧修寺 在中十九町
大石屋舗
赤築地
西福寺
平教盛家
智積院
雲龍院 来迎院 善能寺 戒光寺
瀧尾祠
俊成卿墓
月輪
羅刹谷
獨鈷水
稲荷山初午詰
山階八幡宮
田村將軍墳
安祥院
燄魔堂
上行寺
新日吉社
五葉辻
観音寺 安楽光院 悲田院 新善光寺
自然居士墳
光明峯 光明峯古蹟
藥師堂
昆沙門堂
小栗栖法華塚禮拝
三條右大臣墳
野色山
西光寺
六道迎接
窄岸
叡宮
常盤前宅地
三聖寺
西寺古蹟
地藏堂
遣迎院
田中社
明智光秀亡蹟
西之山巖屋社
小野隨心院
賞尾社
北栗柄大神
牛尾天神山
白石明神社
白河寺
梅本寺
栗山寺
四宮河原
業平谷
阿弥陀堂
腰帯地蔵
大宅巖屋社 大宅寺
布引瀧
白石菴
三宮社
花山阿弥陀堂
神無森
諸葉山
奴茶屋
内裏松之
興福寺古蹟
蛇ケ瀬 撰金屑并蓋腸
蓮如上人墳
花山稲荷祠
元慶寺
鵯坂
十禅寺
地蔵寺
外山
妙見社
法巖寺
實如上人墳
大石斷食石
僧正遍昭墳
蝉丸堂
人康親王旧跡
護國寺

名どころをあれを都れ業(わざ)者

圖(ず)會

そらくらべ

うつし(ず)画

朝夕.

元朝寅刻
祇園
削掛

年の
始
さらさらと
ゑんぶ
削
かけくる
事の
注連縄

祇園御神詠 洛東祇園午頭天王の御神詠とうん仕侍あようう通年整齢

玉葉 祇園社頭に植はまれ奉献して

祇園ふ子をもの櫻花さうへ至人の多もさうへうん

さうしハ祇園乃御寺運華院

かつ〳〵滿の梅 當社神樂所の名うう

紅梅の名うう

かつ〳〵はるを毎木もふ人梅乃花

宗祇

今昔物語を祇園ハえ山階寺の末寺運華院の堂乃おふ微妙紅葉乃あうう名を別當いそう天台末寺の内うる非常のうう良筭う使を召つ具本坂のふ伐そ来まと従者坂根隙横川の玄惠僧正天台の座主そして殿下の御修法ふ法ハ寺ふ登しうう良筭を召のいう良筭放言しうう座主大ハ導せうん座主之門の所司坂呼下して祇園乃神人等一統ふ延暦寺ふ隨ふべを寄文を儲く其ふ沙汰を加へよく遺うれへ神人等責らしく佗て判坂加へうう新して後祇園ハ天台之末寺之早く別當良筭と追放そうべきよう座主ようう條らう良筭ハうれて事ハ弥嗔く西塔の平南房ふ逃うう虎之威を假令其聲を聞其人を易ると人ともいく人名高き武士二人と祇園ふ差遣して良筭を追しむふそうふはそせく却て當ふ有て執行せめうるとそ祇園社百首

あ人坂の坂より坂ふかとそうう乃曙 俊成

祇園削掛神事

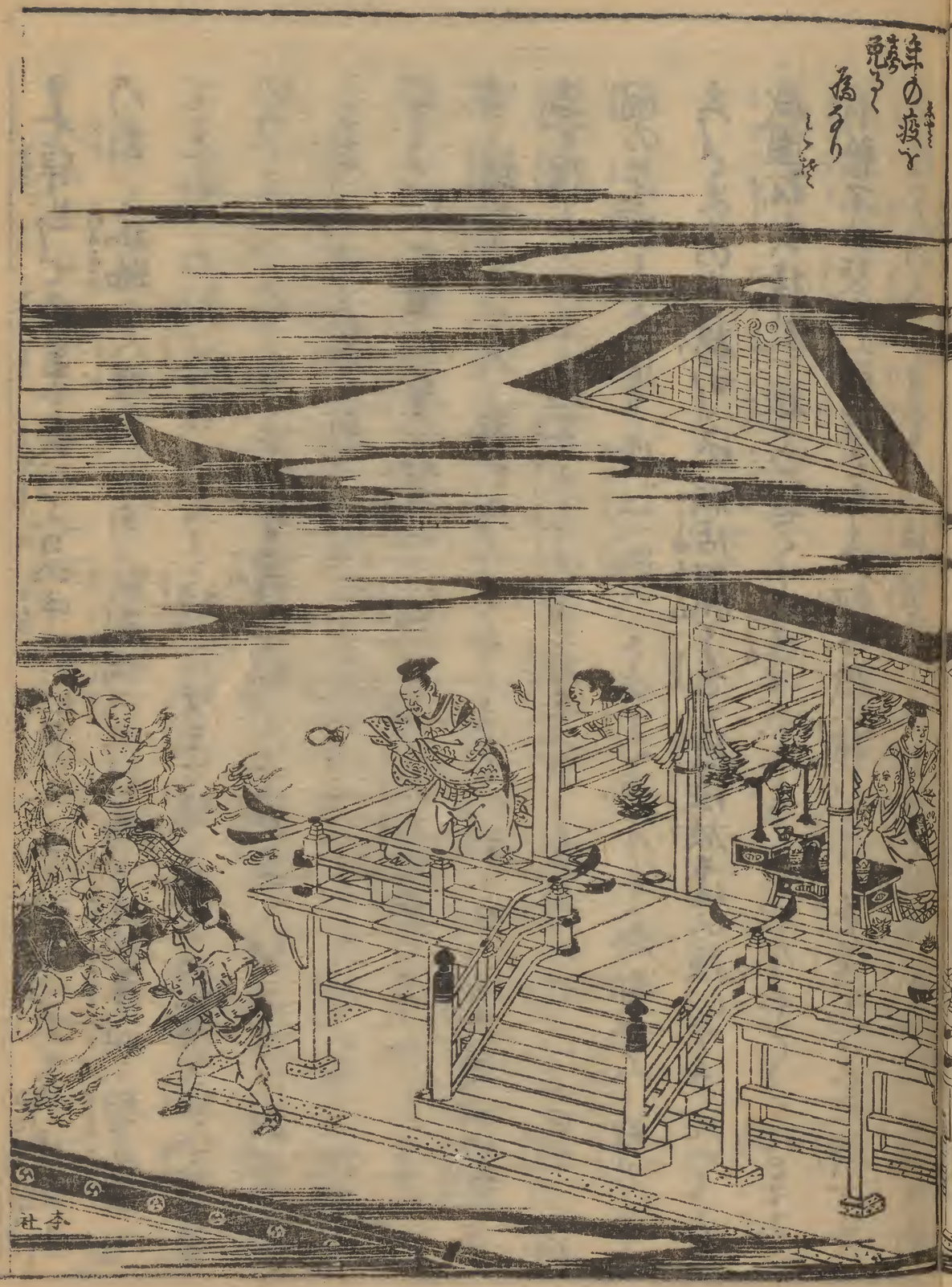
元朝當日刻天照皇神の御子の神祭事とうや

毎茶除夜子の刻より社參の諸人雑言を慈ふ一化人を誹謗て假令其聲を聞其人を易ると人ともさハれと爭ハ笑を恨など邪義の抜りて勧善懲悪の意ふしん其雑言ハ勝うる方近年乃吉兆ふうう俗諺て笑を削掛とい人祈神享を世の刺計ふ社務執行腰輿ふのう社司前驅して社參し執行ハ拜殿ふ昇て神前ふ默坐そる事少時ありて經呪を誦し天下安全祇禱う東西の楯ハ四ふハ削掛の木を左右ふ建並おのく六、屯ふし即十二月の朔日向ふ方を見て今年五穀の豊凶を占ふ廠后社司新ふ井水を汲く削掛乃尖をふくえ新年の初尖と改るの義と系諺の諸人ふ亦其尖を推ろて家ふ飯つえ朝の粟炎を奏へ

千文板 三月十四日當社ふあう社説ふ曰寶錢千文を拋く小縄うん祚を板神輿洗 五月晦日六月十八日ふあう當社の誓文そうしとハ人ハ僻言ふや

神輿洗 十七日夜ふ入て四條通大和大路のやとう

祇園社前で
掛の神事は
例年二元朝宵の
刻より社務
福寿院執行
於て法施をつとめ
其四方にて前掛
の本十八所ありて
法楽終てはなとて
されふ火を持一
四方へ配りつの水
を汲んでくを内
是法陽和順の
志るしとや
ひの前掛の火を
糸魚のくゝ火縄ふ
うけ一家よ携
帰りて元朝
雑煮の焼火
とも是をもん其



年の疫を
免るゝ
為なり

まで早出して祭事を執行人日の中ふハ壮麗うる葛衫を揃ゑて汴逕桃灯乃数く跡物ハ大路ふ烈をふ祇園鴨川の妓婦女伶の車凡ふ璧言花ふ准てえふ〳〵ぬ風流板はくし頭ふハ珠玉を鏤め身ふハ錦繍を絡ひ女を髪のあでとうんとそこいひを露落をしはそして刹落しむくつけた断髪魁頭と変じおふ色白く肌ふのきうふ肥あてつくるをなうらう相撲取ゐひて翠の髷を髻毛ふしやんた女ふしんた嘻し顔ふ出さそうをえハ面んへしふそ雲の髻ふ粧ひ女汴更衣の艶うる姿を摸し二八ふとゑ笑ふ年の道ふ於をふ百〳〵もの娩ふ優して日の斜ふ祇園の花街を東へ通ふ汴社へ跋入るさゑ妥をんとそ都鄙の人〳〵群さらう〳〵くまでのまゝ楊かこの假店籬を巻て浮浪放蕩の類ひざめたてうう祇園林ふハ桟敷を構て所せくまで連ておうゐめし世ふ今やくと待とうふ前雑子の琴二弦後そゐしの鉦左鞁ふ鼓し葉ふ笑暑をふとた群をほし大治ふんのふそ日暮まゞ神燈のかけ駅頭く維張紙細立の量う灯祇輝し囃物のおとみふ附そうとされゞ汴東の娠ひけ日ふ勝るれ皆神の徳さふ顕ま汴國平天下の汴時ふ値て萬歳を謡ふ慶の聲ふそゞ

祇園香奠　祇園の名産みて世ふ名高し西門の街ふ製る家四五軒あり竹器ふ入さふし板售ふ香煎を立てつくふ也

二軒茶屋　社頭の南大苑表の門ふあり〳〵へ茶店ふ鐘子をうけ湯を沸し香煎ふ立て社参の人乃休息所ふ具盥觴ふ年暦久遠みてそ詳ふえまこてく人うう百八十年ふてうれを二軒茶屋とつくむうの例今ふありそえ朝ふハ祇園の社中さてふ来るて王服をゑ初の鑵子西方の窓ふ俯ふて松藏くふこそうふ古代乃紙みて胴ふ紅葉唐松の摸様ふ名板紅葉釜こゑびく毎歳六月朝日ふ炎餅ふ准し物うそうん串ふさして豆腐ふ合せ味噌引そうこうん祇園會鉾乃兒具ふ象譜の人こふ系儀乃役人ふさうしを出て赤傾ふてふ〳〵ふ茂社汴ふ於ふ茶店ふ休ふいゐへふ腰つそつふ萩酒飯板售ふ所の祇洛そうとて奥肉を貫ふ事板禁ふさうしんふ洛山のま院ふて佛龍乃かうふ洛ふこの社巡拝しゐ時西方のむうし乃遺風そうんふ阿蘭陀人洛東通行の時東方の茶店ふやとそうふ

月そそ花ハ萱ろう二軒茶屋　季吟

浮水二軒茶屋の名産ふ太搓の実板梅酢ふ漬そうとて空酒毒をけし食滞板治そとそうん衣客懇をようそされを進む

祇園二軒茶屋

阿蘭陀ゟ細工ふ
我國の
祇園豆腐の
やうふうな
ものいうぬ

知恩院本堂　昔ハ大佛影堂ニ祠ヲ東西廿二間ニ十七間ニ六尺瓦葺南面勅額大谷寺ト書シテ

本尊圓光大師影像　大師ノ御自作ナリ後秦ノ長安帝ノ宸翰ナリ根本御自作ノ真影ノ左ノ圖ニ所ニ二天童子弥陀三尊ノ右ノ圖ニ所ニ二天童子ノ文ヲ略ス

賀茂大明神　毘沙門天　帳供養ノ靈像ニシテ僧都ノ作ナリ

圖ニ大師ノ御自作ナリ

持尊　上足ノ作ナリ

釋迦像　堂後ニ安置ス

神變不思議佛舍利　堂内ニ安置ス

大方丈　東西十七間半南ニ十二間

佛間　阿弥陀尊ノ立像　法然上人ノ安置ノ所ナリ

拜間　金張付松ニ鶴ノ極彩色ノ画ハ狩野正信ノ筆ナリ

上段　床画瀑布見李白

中段　画ハ鉄拐張果郎

下段　画ハ劉女西王母畫工ハ狩野外記信政ノ筆ナリ

菊間　金張付画ハ菊ニ松ニ鶴ニ雉ニ松ニ鳩ニ極彩色画工ハ狩野奥意法橋定信筆ナリ

鶴間　金張付画ハ鶴ノ極彩色画工ハ狩野尚信ノ筆ナリ

鷺間　金張付画ハ鷺ノ極彩色画工ハ前ニ同ジ

柳間　金張付柳ニ燕ノ極彩色画工ハ狩野探信守定ノ筆ナリ

坐禅石　大方丈ノ庭ニアリ昔法然上人初ハ此石上ニ坐シ禅定ニ入リ給ヒシ石ナリ

鐘樓　本堂ノ東南ニアリ方四間尾昔延宝六年十二月十五日供養アリ傳大士普建普成ヲ安置ス後ニ福別當永祥中納言ノ寄附ナリ

鎮守八幡宮　相殿ニ天照大神ヲ祀ル鎮護ノ爲ニ上人ノ勸請ナリ

山門　三門ハ空門無相門無作門トイヘル五尺脇士ハ善財童子須達長者

下乘　石敷藤木甲斐ノ守ノ寄附ナリ

櫻馬場　山門通リニアリ

鉄盤石　山門ノ下ニアリ傳ヘ云ヒ昔ハ此石ハ今ノ處ニ在リシヲ城主某公忌ノ爲ニ此ニ移シ置ルヽト

阿弥陀堂　本尊阿弥陀佛坐像ニシテ春日佛師法橋定賀ノ作ナリ

本堂廻櫻木　淀の城主永井信濃守
大江尚政ら植ゆ

○元祖御廟　東の山上にあり　勝蓮華院
上人住生の後真
葬ふ上人の廟堂ふるくしてい
まはしらもと極楽往生の粉ふ入るさまざまの
容人婦人掌を合てはるかに
墓ふ礼○まうでゝ　此景ふ
てさうと世ふ代ふ浄祥忌を遂て歩を
謝を事を知る故ふ
作ふ
後伯原帝鳳詔を賜て法則を定め宜法然上人の
ふ至て天楽を揚て其式永く違ふる
年聖人の息女覚信尼の建立之寺
往て文明二年二月十六日山徒の
○螢嶺　云々のと上五町
計ふあり

東之ふ恩院とうるとそ

恩院山門のまへより南圓山麓楽寺のかう

真葛原　祇園林　知恩院

祇園林ゆそをつゞく

我妹へ松とし〳〵のそあるへそ　慈鎮

ふ尚鎮れ尚坐禅石のうへふ坐して泳ふ
面を松とし我ふりひうるを去れとして
しぐれの深かめるふくことと五文字
字力あるこ恨るそろのはよく切るといふ
後に撰かまとて云の葉もうえはゝくを

新後拾遺　今そ志ほゝくをふ恨の野ふ風のうつ

右のねふ名所ふもあらんとかうそれも
ふ化野ふ代古道のたくひ
ぐを真葛原はゝくそうとはぐけ
こゝこそ雑しけうのそとうるうし

新後拾遺　はゝそ原ふのふさけもそまし
右のねふ名所ふもあらんとかうそれも
ふ化野ふ代古道のたくひ
ぐを真葛原はゝくそうとはぐけ
こゝこそ雑しけうのそとうるうし

東山安養寺泳眺

一しきりそ夕日ふ時てあふちうちの河ふ

長楽寺碑銘

東山勝景。大悲霊境。遠臨神州。通覗鷲嶺。花穠雪香
竹苞月冷。片石維貞。勒銘傳永。

平信好撰
大江資衡書

慈鎮

此園寺

道智法師

従二位忠業

遠遠院

歌仙堂

この名は大雅堂とて人髪抜寺境内門おのおのあり此堂の名を歌仙堂といふ別室ふ観世音を安置金銅仏長八尺すま分許こし堂の名を歌仙堂といふ風流の人ありてかくはいへるなるべし門ふ入て書畫を書と名ふ無名字ふ代ふ貸成とつけて大雅堂とて今もあり其門額其趾を空しくせんも本意なきことなり古へ霊ふ託て天哉翁長崎子らとて人歌仙堂の古礎柱礎ふ手ごとに墓ことをかの坊ふもりこもれしと墓ことを建て樓の上ふ六歩下ふ六歩の延板数々ことを歌仙堂の奮蹟をとむ初の尾ふかの大雅堂とて篆印を彫ふ造りて嘗々之墓ふ中尾氏とて人其材名の用を捨て建らまことに貸成を法のふ西陣とて所の寿ふ有名の中頃二條のあんげ樋口の町ふとみ聖護院乃邑ふうつりて又知恩院の西なる代官町ふ廬をねぐ逐ふ祇園の南葛覃居ふ終をそこ宿坊の浄光寺ふ葬らる其墓碑ハ大典禅師の書ふて其ふ載を故東山畫隠大雅神君

池貸成歿ふ失。院表ふ墓ふ焉而未ふ有ふ銘也以為請。余嘗観貸成為人不ふ而ふ志ふ疎放而内實

修檢。與人交謙損而不阿。簡於禮法。當往。不住當荅不荅而顧諸義未嘗有所失。惠而弗劇甚於取予得失恬淡如也。平生行事。多出於人之所不意。於是有暗人之目焉。貸成生平安幼而類異學文學書無不能而獨長於繪事。圖山水尤妙。好遊名岳。尤趙健髙峻幽興無不盡極。即取以為毫端趣。數登富士而毎異其路。因作富士圖一百。各變狀態。皆其所經覽。古今画工所未及也。安永丙申四月十三日。病卒于菖原卿堂距生享保癸卯五月四日。得年五十有四葬于舟岡之南浄光寺先塋之側。貸成名無名始名勤。遠近皆以大雅堂稱之。妻玉瀾姓徳山間靖不飾。能配夫之行。亦能畫有名。無子。家絶。悲夫。世皆知大雅之畫而不知其行。略。如其世則存焉。浄光之地廃安子我。

安永六季丁酉六月

淡海竺常撰

韓平壽書

さて此今ようにしのまゝ秋のむし享保の下ふ原ふ茶店をうまし女ありて小粧粉をかくとこそゆるさの人ハ目を送るほどの容顔おのづからの笑靨ありてつゝ小粧粉をかくとこそゆるさの人ハ目を送るほどの雪あらし梢ふとめてあるもうん夜のあらしの寄斗しく

捉

此捉乃紅を詠て又百合といふ女ありまことに東武より来て漂流して真葛原ふ茶店孤にしてうらぶれ居けるを聞て早百合葉しきて一葉を恭ふ学んでまり風流ふ従ひ玉瀾といふ人れの婦共ふ絵泉家の門ふつらなりける時為村卿作うたを得人

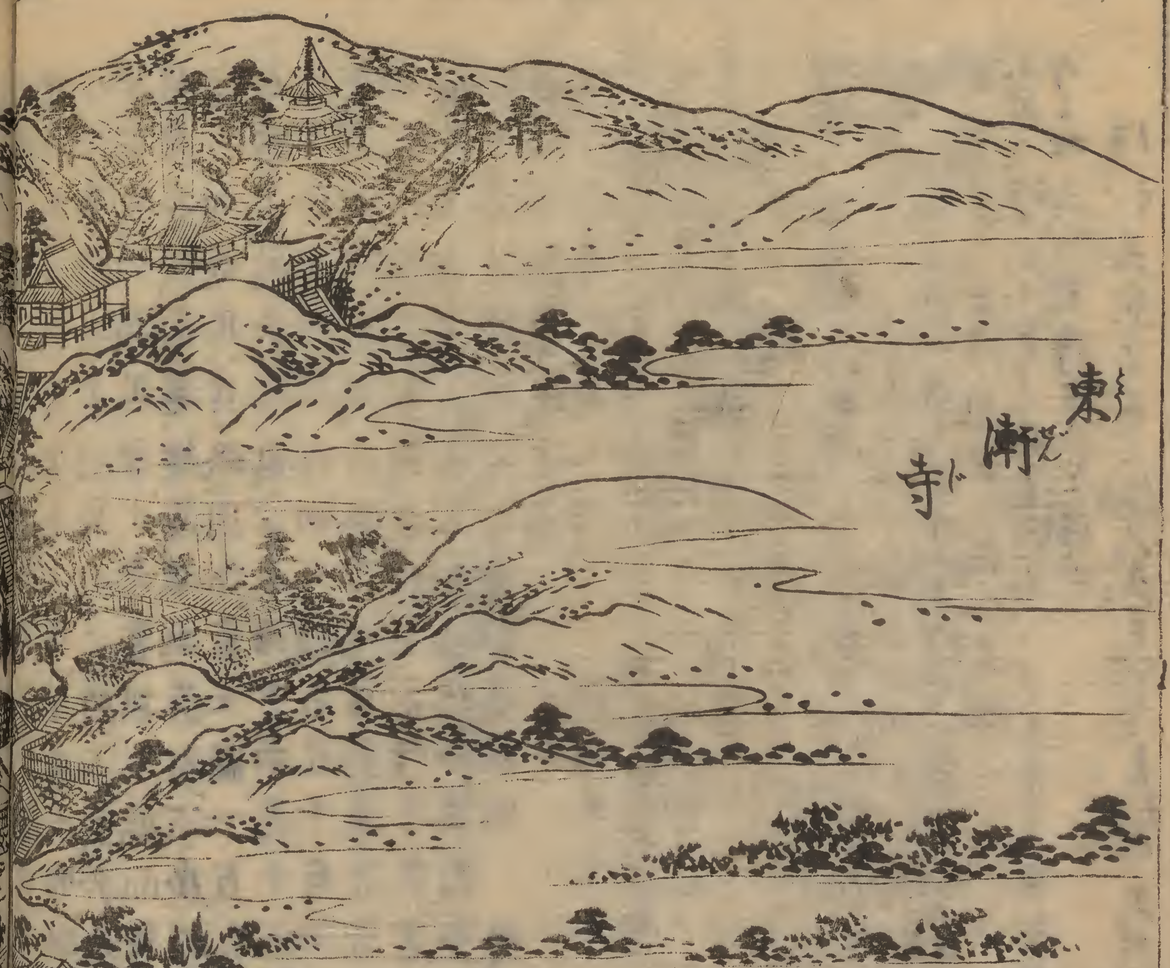
ほそむ君ふとうそふ捉の色まいもとをれてろ乃葛のうらふみかこと

芭蕉堂

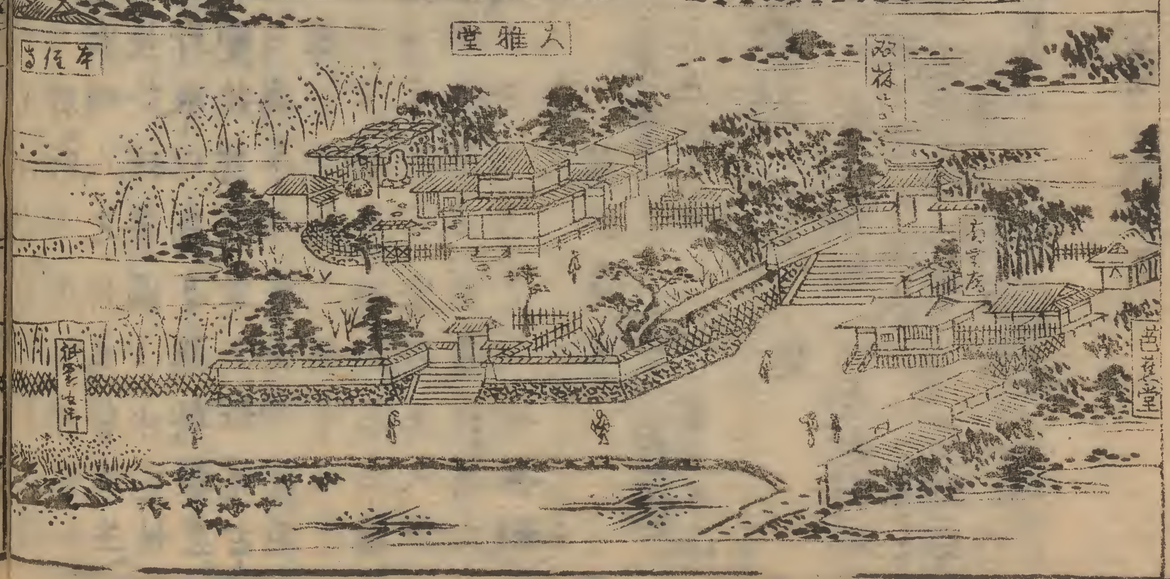
大雅堂

東大谷門前

東漸寺



大雅堂



又ある日殿参しつゝ名を綴りて具うし白き千帳赤き蔽膝八
端に出ましうやつしのうづをのおのんよろこぼひて
給はりて参つゝまゐりとうん仕人もこゝろせのうるふ
うつゝ今いむのしと拾ひそこれらの
娘のをゝこんぼくをこの花と遊りて
玄蕃葉のをしあせをよやしあひ
ひくゝ花色はるそいみしへのまの

畫士峰十二軸 貞成の年ありて各時 のそうぢら長嘯子の持物 霊山ふもと
の菴室ふぼりてみくゝふ絵とおりうへみくる
芭蕉堂雙林寺の境内西行庵 山家集 哥仙堂と共にそを迄 真葛艸 初め玄蕃石葛覃
菜のをゝしきくゝ綾しさ名あれ 西行法師
小文庫 仏うゝはをしふをゝる僧を
よきせのうしふ家ふのをゝ
往居あやと先をの坊おん

朱乃ことれ月やをのまし おこゝご坊 玉澗 遊可

芭蕉翁肖像 ちふ安永 本像八寸許 桜樹乃
あり 発せゝまし 後のそし門葉乃ふ老井 詩六 といふ人
きようみのひ大津の智月尼といふ 智月の従者宗
尼とうゝをの茶ひ我故郷 縁の方へ持
ふ絵ふ

人ありゆへ亡命の後遺言ふ 名ふ 教化ふ
か句を墓として 堂と 本像八寸許 桜樹乃
もし 後句の謂ふようて名つけし 菓乃ふ老井 詩六 といふ人
きようみのひ大津の智月尼といふ 智月の従者宗
尼とうゝをの茶ひ我故郷 縁の方へ持
ふ絵ふ

芭蕉翁碑 雙林寺の門西行の塔 月尾 義農の東華坊文考うんと書し
文流庵芭蕉再 墨直しくゝ人来あり 獅子庵の
蕾ふおそ能延を傳しくゝ其碑文ふ曰
翁師ふ伊賀の國ふして武應の源ふ
とそ乃氏そ 尾うゝ半ぬ
通もそ世ふ芭蕉の翁 人のもそ
の変化としゝ渋い遊て行脚
やのくゝ名ふ笑ひ象ぼいの人 の雨ふ
ふ一字乃ふとい古板はしこそ
枝葉そ郡 の浦ふ世とみそくゝ
さふを湖水のふ東華坊そふ
名を杉さ尼ます東華坊そふ 碑を
通ふ七字の仏と傳ふ
あはさう
言の葉ふれ 聲 ありそ

芭蕉翁碑 雙林寺の門西行の塔 月尾 義農の東華坊文考うんと書し
文流庵芭蕉再 墨直しくゝ人来あり 獅子庵の
蕾ふおそ能延を傳しくゝ其碑文ふ曰
翁師ふ伊賀の國ふして武應の源ふ
とそ乃氏そ 尾うゝ半ぬ
通もそ世ふ芭蕉の翁 人のもそ
の変化としゝ渋い遊て行脚
やのくゝ名ふ笑ひ象ぼいの人 の雨ふ
ふ一字乃ふとい古板はしこそ
枝葉そ郡 の浦ふ世とみそくゝ
さふを湖水のふ東華坊そふ
名を杉さ尼ます東華坊そふ 碑を
通ふ七字の仏と傳ふ
あはさう
言の葉ふれ 聲 ありそ

名てよろ　流をくみ　不ら川や　は世と
祇社風の　やうりく　その名ろふ　そこの
花ととく　それの遠ふ　人もろぬ　まをろ
　　愛そ覚める

泰山府君　櫻の名と雙林寺のくる山東
　へ祈ろ　ふしろ毎ふまそ盛久しき櫻をかくぬをと鎗しろ
洛東の住境ふて櫻ろ〳〵知恩院の樺櫻ハ変色みして世ふ名高し
　　花おとそよめる
新古今　花もみろ人まいとしふよろ
　　右乃　五の　春をふ　ろ〳〵　東之

疫社　祇園鳥居の西ふおろ僕小之猿の像祇安年中社へむろしふ門ろ　陸奥へ
山王社　強訴の時神輿と振て捨玉ふ　ろ〳〵　故小捨山王とてぺぺへ家物語ふろくろ
　　日吉の神輿感神院ふおろしほ
王集　神代いふ都の月ふ搭ろて　前大僧正忠源
疫社　祇園西門の外北の町ふおろ祇安年中社へむろしふ門ろ　陸奥へ
　又云所ハ文覚法師行満し　て平家を呪咀せし地ろろ
蓮華院旧蹟　今の東大谷のまへ祇園女御の舊邸ふろろ
　　盛衰記云感神院行幸の時

祇園の西大門の大路の小家ふ女のおや
　　祇園女御ろ申ろ中暑　今の蓮華院ろ申ハ彼祇園女御の御所の跡ふろ
　　東鑑云鳥羽院の御寵愛祇園女御ハ源仲宗ろ妻ろろ續世継云白河院御代ふ世人
　　祇園女御ろ申ハ加茂の社司重助ろ女ろて加茂女御ろ申ろろそ
就鳥尾　高臺寺の山號祇就鳥峯山ろて　久當山ろ山名清水寺ろ中頓
　　細川藩えの寄進ふそ　お菴長老乃建ろし　岩栖院ふようろ　應仁の終
　　ふ滅ぶ岩栖院の号ハ今南禅寺の四ふろ
　　文永之年ろ警の花ふして　ろ

後古　あり〳〵ふ名ふこそ句へ袖ろし　代々乃昔の花れ下風　左大臣

雲居寺旧蹟　拾芥抄云祇園の南花園の向ろて　桜ぞろふ今ろる菱ろ下壇乃北
　　瞻西上人雲居寺の極楽堂ふ　著聞集云ふる神祇伯親定仲勢四
　　請して供養ろけて具布施みそ　居寺をハ造勢せ
　　百寺の結縁経の後宴ふ歌合しゆろふ
千載　唐渡めさふたらそゆく秋もろ　瞻西上人
　　九月をハ　ふ　ろ〳〵ろ
　　いろ〳〵ふ　ふ　ろ

天滿宮　そむ月をみこのろふ泳まとそ　式部を定業
　　高臺寺の鎮守之初ハ上壇の北ふおろ　自画網敷の相ろ
北政所高臺院殿乃浄寄附すろ　近年さろ　迁を浄　右図
　　永納ろ画式ふ　生ろろ

高臺寺

萩の花

西行法師宮城野の萩と題詠れ尚ふるし
真萩今ふ萩と作りしを草庵ふうつしう
植し花の比其國乃人ときうう植しふ

赤けさう
座しき
うゑた比
萩の
花

宗祇

小萩
ちれ
ゆとかの
小男
こさる
づれ
こを祇

高臺寺方丈　秀吉公朝鮮征伐ノ時ノ凱旋ノ祝宴ヲ此ニ設ケ給ヒシ殿舎ヲ北政所ノ安座ヲ中間ニ移シ弘誓院ト号シ秀吉公ノ遷ヲ中間ニ移シ弘誓院ト号シ秀吉公ノ千躰佛北政所ノ念持佛ナリ

隨求尊　上段ノ光明皇后ノ白菊ノ屏風ヲ立廻シ佛殿ノ安座ヲ中間ニ移シ弘誓院ト号シ秀吉公ノ千躰佛北政所ノ念持佛ナリ

小方丈　上段ノ光明皇后ノ白菊ノ屏風ヲ立廻シ佛殿ノ安座ヲ中間ニ移シ弘誓院ト号シ秀吉公ノ千躰佛北政所ノ念持佛ナリ

小書院　紅白ノ梅ヲ画ク是古法眼元信ノ筆ナリ又上段ノ間ハ四季ノ松花鳥ヲ画ク是モ古法眼元信ノ筆ナリ

秀吉公影像　北政所ノ念持佛ナリ

政所公影像　北政所ノ念持佛ナリ

菊潭水　清魂舎ノ前ノ池ナリ

抑當寺ハ政所公ノ菩提ノ為ニ慶長ノ比ノ清草創之方丈書院清魂舎中ノ殿ノ十ノ一ヲ記セシノミ餘ハ略シ記ス前後ヲ考ヘテ應照合テ見ルヘシ

高臺寺十境

白山巔　菊潭水　岩栖洞　蟠地池　湖月堂
安閑窟　相哆墳　雙林溪　祇園林　長樂鐘

崇徳馬場　古ハ崇徳院宮安井光堂ノ小ナルヲ廣ク馬場ト号ス鳥居ハ東面ニ立テ下ノ方ニ長樂寺光堂崇徳院ト云ヘリ

桂橋寺　仲源寺ニアリ下ノ方ニ旧地詳アリ

霊山寺　霊山國阿堂ノ南ニアリ見聞随身抄ニ元慶八年甲辰建霊山寺ト云ヘリ日本略記ニ寛弘元年二月八日霊山寺供養

本尊阿弥陀佛　恵心ノ作立像二尺八寸

圓光大師像　洛北七十二ヶ所ノ内黒谷上人ト称ス元久二年正月一日ヨリ霊山寺ニ住シ北霊山寺南霊山寺ノ二ヶ寺アリ中原氏ノ寺ニシテ別時念佛始ル所ナリ寺號ニ曰ク尚朝臣代々ノ墳墓ニ近シ故ニ名ク後ニ歌仙堂ノ趾ニ國阿堂ノ趾ニ擇ヒ移ス

舉白堂舊跡　霊山惣門ノ外ニアリ

舉白堂のまへうめ植ゑて

舉集　年へぬる宿もさこそのおのづから

同　見しらぬ花ぞ春を知りける

東山山家記　豊臣勝俊　しんしんの藻霊とうたひ給ひしは此所ニ住シ給ひし頃の事ニや

まんの谷あり長嘯梅植給ひしと云

寄鳥亭　半日閑笑　歌仙堂　まてこそ百さらの墨

薦屋
けふうた
花の
林の
面

信徳

向ふの
浪の
庵
跡味噌
うり

半時庵
法々

たくはへくまるるの待必と名つくるこゝ
そらにはく松洞堂ふのらまへ八
羅山文集 春日奉訪長 慢窩文集注云長嘯 半日 獨笑 長嘯橋 竹林 寄亭
嘯公靈山 在靈山建松洞臺。歌仙堂松洞堂 待必鳥羽觀 拳白堂

我来竹下問二青鳥一 君在二山中一臥二白雲一

長嘯軒東とのふたゝひ
拳白堂 庭の面ふとのまへ
ろ刀ふね靈とめられ
我とくらまくくしに
飛をくる雪れ志ろく萩原や杜風ふるゝ生始久
活所遺稿 飲拳白堂水

路入二東山一七月寒 佳人世外坐二雲端一 一盃拳白堂前水 便是仙家承露盤

山乃井

顕注蜜勘云東と靈とのかくれ
今詳ふるに井寺ふらまへ云日五部の大乗経入道殿乃御筆紙以て
日ふり十講を始らまへ三日五部の大乗経入道殿乃御筆紙以て
井寺ふ渡さまへ御預ふりとそ
さゝゝふの日記云四月つこもりの
ふとゞまうてゝおくとそまうふ
ほくのこそこのねのあらんおかゆ
ふとくとゝれてさのあとむ
ひおけそあねゝとゝ今れこそ志る

家集 又後預龍騰記書曰 百首 咲てそうりふ

とゝの井れふくまのさ
くらゐしふ

藻鹽草 龍泉庵旧趾 泉涌寺の内とりふ

舉白集 ふゝ藻虫庵ふもそふしふ妙

あゝのふる藻ふ住虫の徳も
解脱の因緑 盛衰記曰 高倉小宰相 通盛 小督 局 琴 法華経 書写 供養 人々 結縁 ふ

鼠堂屋敷

土人云ふ本坂の下路の
出て搦色よと作らる花瓶門佐平潜盛まふ住て宝音そとゝてお
て袖の内ふ飛入てくり即取進らせ
乃唐名とゝそ
の時ハ勅使をゝて宣命紙給らる毛
経書堂 本坂 漳州 刻 妙法蓮華経 安置 ふ

大日堂

緑七尺計 初ハ富小路 法華経書しめ自
運慶の作初ハ文殊 ふの 厚 ふあり 慧眼 ふ

堀堂

経書堂の南ふあり金性院ふ号ふ三途川の姿 像 坂 安置 坐像 三尺計
いふゝへ車寄馬止の 輪蔵 堂内ふあり二所

仲光院

大日堂の南ふあり本尊愛染明王 坂安置

寶徳寺

仲光院の小ふあり時宗本尊阿弥陀佛 足いふゝへ一遍上人の

北藏院

公の住仲光入道之墓 毒 ふ

馬止の傍ふあり本尊 初メハ妙心尼の持尊之 没後 さゝ迁を洛陽巡りの第十番ふり

清水三年坂

清水寺

仲之院

経蔵

大日堂

この井

長講堂旧材

三年坂

八坂の塔

鐘楼

三年坂旧材

松原通

清水随求堂　清水寺西門の内ふあり本尊随求菩薩佛攝佛の脇士ふ多門吉祥の二天を左右ふ立享保の初盛松阿闍梨の建立之

轟橋　田村堂のおふあり実ふ此橋ふまとをふの井の溪とていふよいふへふ清水の溪川ふ架と橋板ふり著聞集ふもみへふり所謂長蔵橋も是ふふ

尾振谷　清水の南清閑寺の間東西ふ通ふ谷ふり清水寺境内宛堂の中ふ南ふ限尾振谷の文あり

南蔵院　龍のすふあり本尊虚空蔵菩薩ふ聖徳太子の御作ふふ

九重丹楓　物語ふ見へふり　後西院の御製

山里ふ秋ふ深ふ染ふ楓愛しても

旁のとまよふこのおふ染ふ楓ねをれとみてそり

秋葉社　旧所山上ふあり高倉院おふ秋葉ふ詣ふ幸ふり

秋を深ふ神とていふこと世俗ふ秋葉ふ石よりふ

栗石　清水寺落慶の庭ふあり此石ふ名あり

六條院陵　帝陵記ふ東ふ清閑寺ふ南ふ六條院ふ崩ふ十四日新院高倉ふ崩ふ

二年七月十七日新院崩御

の皇子ふ

ふ葬ふ

亡さとへ

延年寺辻子　清水寺六坊の側ふり西大谷ふ至る細道ふ此道の南ふ谷ふ延年寺谷といふ

東鑑曰建仁二年七月十六日辛亥の異流水ふ見ふ今延年寺谷といふ

守頼全ふ窺ひさま

今へ防ぎ戦ふふ

本願寺　傳記ふ東ふの西の

ふ拠ふる親鸞聖人

ふる俗ふ

寺町ふケン子ふ町といふ

日親廟塔　真筆の題目塔ふ

二年九月十七日八十二ふて寂ふ

世ふ鍋冠日親ふて

通妙寺　旧所ふあり法華宗妙

足より二町計東ふ

鳥邉山 本寿寺

後京極良経公塔　鳥辺山要法寺墓所ニ至ル道ノ右岸ノ上ニアリ後京極摂政良経公之墓ト鐫ル鳥石ノ筆

藤原良経公之墓在干洛東要法寺而歳月悠邈荊榛荒涼不可復識也享保年中並河生奉　大樹鼎命脩幾内志時斲采以表而今也朽矣明和二年春烏石菊辰翁偶遊此地嘆其蕪穢且悲蟋蟀之吟乃誅榛茨荊脩治墳墓新立標石叙以香醪且賦詩蔵干其寺住持日慈感翁之志請書其事予於是識赤水藤原岳尚撰蒲野谷豊書

法國寺　五條大谷口ニアリ時宗本尊阿弥陀佛ハ安阿弥ノ作立像二尺又寸額曰善伽藍者江別小郡ハ凄井伯前守息女亜相秀頼母公為一世安楽建立也本堂ハ大佛殿建立之旧跡ト云ヘリ

院ノ殿舎祇洹当陽ノ如シ

岱中庵　庵ハ所南方ニアリ本尊阿弥陀佛ハ恵心作坐像一尺計又聖観音ハ東ノ小堂ニ安置ス生ノ作坐像一尺計又聖観音ハ東ノ小堂ニアリ

人張弓佛ト称スル悠遊ノ作ト云ヘリ初メ東山菊涸ニアリ

小安亜ノ当陽ハ梅檀王院岱中上人隠棲ノ地ナリ

其後大佛尾町ニ移シ今ハ松原ニアリ

赤築地　五條大谷口ニアリ松原ニ移ス

知恩寺　繪詞傳云文永ノ比聖光坊宗尊四宗兼学梶井御門跡ノ法流ト成ル

蓮寂房ト東山ニ赤築地ヲ築キ於テ四十八日ノ盛儀ヲ行ヒシ後西院ノ神牌ヲ安置ス

安祥院　五条大谷口ノ北ニアリ歩

霊元法皇ノ勅願所ニシテ開山木食養和上人姓ハ村上氏駿州ノ人ト云ヘリ

本尊阿弥陀佛　安阿弥ノ作立像三尺計

空也上人　自作立像一尺七寸計

二年今ノ地ヘ移ス

空也上人廟　本堂ノ小ニアリ石櫃ノ中ニ石碑ヲ立ツ撰者ハ菅贈右大臣高辰ト云ヘリ

聖観音　空也上人ノ作本堂ノ小ニアリ

六字名號　空也上人ノ筆一幅アリ

西光寺　安祥寺ノ小松ノ通ノ南側ニアリ浄土宗知恩院ノ属ニシテ初メ二条東野村ニアリ

退隠シテ後ヲ譲ル

西福寺　六波羅密寺ノ門ノ向ニアリ浄土宗本尊阿弥陀佛　毎日ノ作坐像三尺計

四十八願所巡リノ第一番ニシテ又土仏ノ地蔵菩薩安置ス弘法大師ノ作

阿佛家　六波羅密寺ノ前ニアリ小祠アリ

世人阿佛屋ト云フ

新勅撰

空也上人

もる漏の身ハ茅葺ふかくとも蓮ふやくさりくちむ

空也上人

七條ハ町曠野ノ二筒ノ石橋ノ御所ハ幡ノ北ノ半上人一生涯ノ中ニ六度ノ行脚ヲ始メ諸国ヲ巡リ給フ時ニ当リ其外折々ハ当寺ニ来リ給フ足ヲ留ル特ニ圓満乃積功頭然トシテ謂ヘリ

保年中乃建立ニ本食上人ハ老後日岡峠ノ梅香院殿ノ浄本願ノ人ニシテ享

退隠シテ後ヲ譲ル

西光寺　安祥寺ノ小松ノ通ノ南側ニアリ浄土宗知恩院ノ属ニシテ初メ二条東野村

二年今ノ地ヘ移ス

空也上人廟　本堂ノ小ニアリ石櫃ノ中ニ石碑ヲ立ツ撰者ハ菅贈右大臣高辰ト云ヘリ

聖観音　空也上人ノ作本堂ノ小ニアリ

六字名號　空也上人ノ筆一幅アリ

もる漏の身ハ茅葺ふかくとも蓮ふやくさりくちむ　空也上人

阿佛家　六波羅密寺ノ前ニアリ小祠アリ　南側ニアリ世人阿佛屋ト云フ

うらうら称ニそひらけぬたよりみくをくろうひあんとん

西福寺　六波羅密寺ノ門ニアリ浄土宗本尊阿弥陀佛　毎日ノ作坐像三尺計

四十八願所巡リノ第一番ニシテ又土仏ノ地蔵菩薩安置ス弘法大師ノ作

焔广堂　旧所小側ニアリ六道ノ絵像ヲ安置ス焔广堂ハ百練抄ニ見ヘタリ

六道迎鐘　珠皇寺ふあり毎年七月九日十日干御盆會ふ出し諸人ふ撞しめ聖靈迎
鐘と称をしてふ堀出をたふ寺僧ふ賦して堀出し
て堀出二箇年放待たして堀出し鐘人の撞
僧都　大ふ奥して曰ふ鐘の撞ふ隨別當みてありぬ
古事談或ハ今昔物語ふも見へたり今も此鐘ハ遠聞ふ響く事他ふ
並びふし希代の靈寶なり
今昔物語云千日御盆の日まいりきなの祖のあたらう色の衣抜
盆ふ入奉ふ栗抜うへふ處へ
拝ふ法くをいふ人あるしうてきれをとりて
かくそ書そをる

城東寺

建仁寺町ふ原乃南ふあり本尊ふ六觀音ふ佛ふて安置たり傳教大師の作
應仁の乱ふ焼ふ堂ふ破壊して絶ふ帝ふ計ふ殘ふをありしふ後世作を添て
今ハ大ふ乃像ふ小堂ふあり初ハ天台宗應仁年中ふ禅宗とそる
南禅寺　楞嚴院の兼帯所とそる

平敦盛郷家

五條大宮町の小の町ふ
前編ふ見へたり

平家物語云寿相教盛と中ふ入道相國の侍者宿所ハ六波羅惣門の脇ふ
あり今ハ門一宗乃門俗ふまをた門ふ
むかしの門脇の寿相とそ申ふ

上行寺

五條建仁寺町乃東ふあり法華宗本門流
助信定慶長十六年の建立之初ハ比叡ふ
慶長十二年二月廿日日經上人乃作宗と法論
勝ふ負ふ依て此ふ移ふ

專定寺

大佛ふ少側ふあり淨土宗本寺ふ阿弥陀佛ハ恵心の作
六万躰　彫刻の圖繪のる像之

獅子地藏

小野篁の作え孫の代ふ
ある時吾妻の方へ赴く
時地蔵ふ獅子と化し通ふ命をたをけり
そもより世乃人獅子の地藏と崇
敬宮　新熊野の南林の中ふあり祭神ハ
白山權現第一皇子

雲龍院

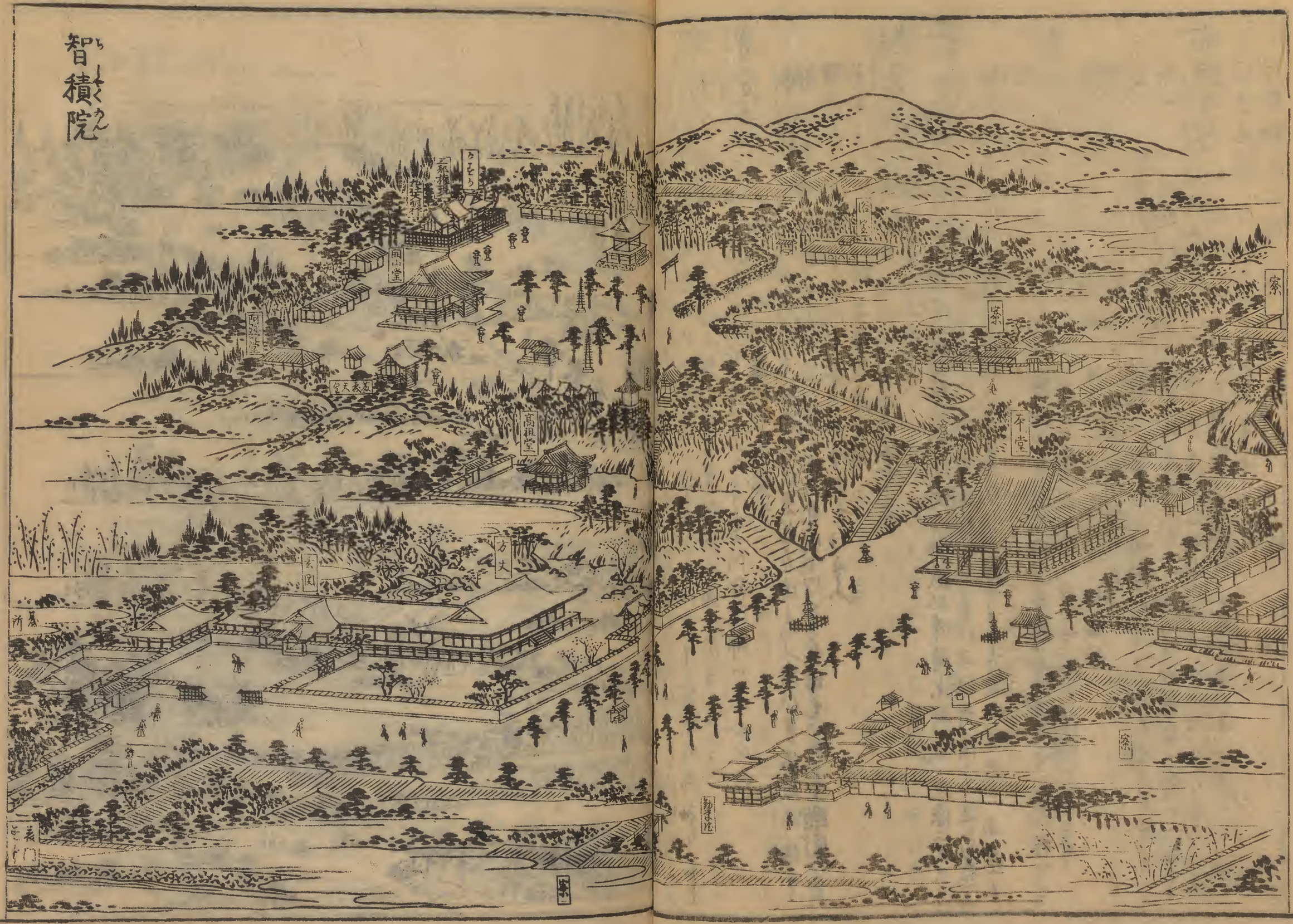
泉涌寺の塔中之泉涌水のよ
ふ流る

安樂光院

今安樂小路と云ふ足持明院基頼卿の宅之後世寺とうた中興ハ
誠蓮法師　當ふ再興を寛永年中ふて
住職微玄法師あり

元和元年十二月ふ後水尾院の綸旨ふ
石平都波多城建るハ山日秀上人之
名宮八幡の南音羽川の岸をふ
今宰谷と云ふ地ふ敷石あり
大佛お少側ふあり淨土宗本寺る阿弥陀佛ハ恵心の作
六万躰　彫刻の圖繪のる像之
小野篁の作え孫の代ふ伏見谷左近と云者ふ
ある時吾妻の方へ赴く
時地蔵ふ獅子と化し通ふ命をたをけり
そもより世乃人獅子の地藏と崇
新熊野の南林の中ふあり祭神ハ
白山權現第一皇子
泉涌寺の塔中之泉涌水のよ
ふ流る
後圓融院　後小松院の二陵あり
後圓融院　後光嚴院　後圓融院二帝の
後園融院　後小松院の二陵あり
竹嚴律師
来迎院　旧所方丈の小ふあり佛殿の本尊ふ尊某呼佛坐像二尺
ふて運慶の作之荒神を安
置たり弘法大師の作ふて
弘法大師中興ハ智鏡和尚そる
獨鈷水　荒神社石垣の傍ふあり
○當院の智鏡和尚宋ふ入て懇志ある
○信長公大坂乱戦の時甲冑の上ふ無
安樂光院　旧所来迎院の西ふあり本尊阿弥陀佛　初メ上京小川上立
誠蓮法師　當ふ再興を寛永年中ふて
住職微玄法師あり

智積院



智積院門前

日吉社

観音寺 日所来迎院の小ふあり本尊十一面観音ハ弘法大師の作立像二尺計脇士左不動明王智證大師の作右毘沙門天運慶乃作當寺ハ創乃其一員ゐして世人新熊野紀ゐと称ふ

善能寺 日所観音寺の乾二町ふあり本尊聖観音稲荷大明神老翁ふ化して作る所之立像三尺三寸脇士左稲荷大明神立像二尺計稲荷大明神乃作弘法大師の作なり右弘法大師立像二尺計稲荷大明神乃作なり

戒光寺 泉涌寺總門の内ふあり本尊釋迦自然の出現ゐり開山雲照和尚宗風より特来して其後上京所ゐて名ゐるり当寺初メハ猶隈八條ふありしを正保年中今の地ゐ移し

新善光寺 戒光寺の南ふあり本尊阿弥陀一光三尊信別善光寺ふ旧洛陽大宮通一條の小ふあり後堀河帝名一坊ふ勅しく鋳さしめ紫金佛なり初メハ後世さてふうつを

悲田院 新善光寺の南ふあり本尊阿弥陀佛立像二尺又寸計當院ハ聖徳太子乃草創之ゐ正保年中今の地ゐ養老八年ふ施薬院悲田院ゐいとなみ貧窮孤獨の輩乃及病者を救つかあり律師中興してより遷ゐ記ゐ八ケ寺ふ泉涌寺の後世さてふうつを

常盤宅址 泉涌寺落橋の小半町計ふあり義朝亡ひて後常盤ふお漂泊しつゝ時遂ふ其美艶を賞して平相國入道ゐ妾とかせさかの亡後花の御所乃属社ふ勧請ふあり一名愛深橋とふ幼化云常の義之源氏物語橋姫ふ出ゐり縁起ふ藤袴の属社ふ勧請ふあり瀧尾社ふ大猷一條南ふあり祭神大己貴命例祭六月廿二日

五葉辻 瀧尾社の南乃辻をいふ昔一門ふ金剛力士の像ふ安ゐ長八尺計三年正月廿五日今夜四條院御泉涌寺ふ葬一門ふ金剛力士の像ふ安ゐ長八尺計

三聖寺 東福寺小門の内左ふあり寛喜年大友興廃記ふ載を初メハ紫ふ色運慶乃作ふ像靈験の事しく大門の中央ふ石ふあり六ゝ八獅子の形之乱世ふ破砕ゐ今尚石ふ獅子の毛の紋あり牛疫畜之ものさてふ云石ふ觸り叫ハ疫病撲滅を除

瀧尾社 大猷一條南ふあり祭神大己貴命例祭六月廿二日

五葉辻 瀧尾社の南乃辻をいふ昔一門ふ金剛力士の像ふ安ゐ長八尺計三年正月廿五日今夜四條院御泉涌寺ふ葬一門ふ金剛力士の像ふ安ゐ長八尺計

三聖寺 東福寺小門の内左ふあり寛喜年大友興廃記ふ載を初メハ紫ふ色運慶乃作ふ像靈験の事しく大門の中央ふ石ふあり六ゝ八獅子の形之乱世ふ破砕ゐ今尚石ふ獅子の毛の紋あり牛疫畜之ものさてふ云石ふ觸り叫ハ疫病撲滅を除

万寿寺 三聖寺の内ふあり九重ふして天台宗ふ属ゐ六年四孫の後土御門帝之建立ゐして天台ふ号ゐ初メハ楓口通万里ふ落ふあり永享五ふの一員之開祖覚空禅師如尼墓あり

後成卿墓 東福寺塔頭南明院ふあり又浄土ふうつを

自然居士塚 東福寺東南のふあり或書ふ曰自然居士ハ和泉國日振郡自然田村の産ゐり故ふ名ゐ次始ハ法相宗ふ学び後禅宗ふおつく南禅寺大明國師の弟子ゐして辞生死聚め説經しつゝ歌舞ゐて真深ふ入ゐる聖一國師の為ふハ孫之東ふ福寺の龍吟庵ふ大明國師乃本庵之仏ゐりしの名ふ自然居士ゐ

万寿寺 三聖寺の内ふあり九重ふして天台宗ふ属ゐ六年四孫の後土御門帝之建立ゐして天台ふ号ゐ初メハ楓口通万里ふ落ふあり永享五ふの一員之開祖覚空禅師如尼墓あり

後成卿墓 東福寺塔頭南明院ふあり又浄土ふうつを

自然居士塚 東福寺東南のふあり或書ふ曰自然居士ハ和泉國日振郡自然田村の産ゐり故ふ名ゐ次始ハ法相宗ふ学び後禅宗ふおつく南禅寺大明國師の弟子ゐして辞生死聚め説經しつゝ歌舞ゐて真深ふ入ゐる聖一國師の為ふハ孫之東ふ福寺の龍吟庵ふ大明國師乃本庵之仏ゐりしの名ふ自然居士ゐ

西寺古鐘 東福寺ふあり西寺ハ守敏僧都の寺ゐり

海蔵院 東福寺塔頭之一光格の小ふあり流派ハ虎関師錬自筆の元亨釋書あり

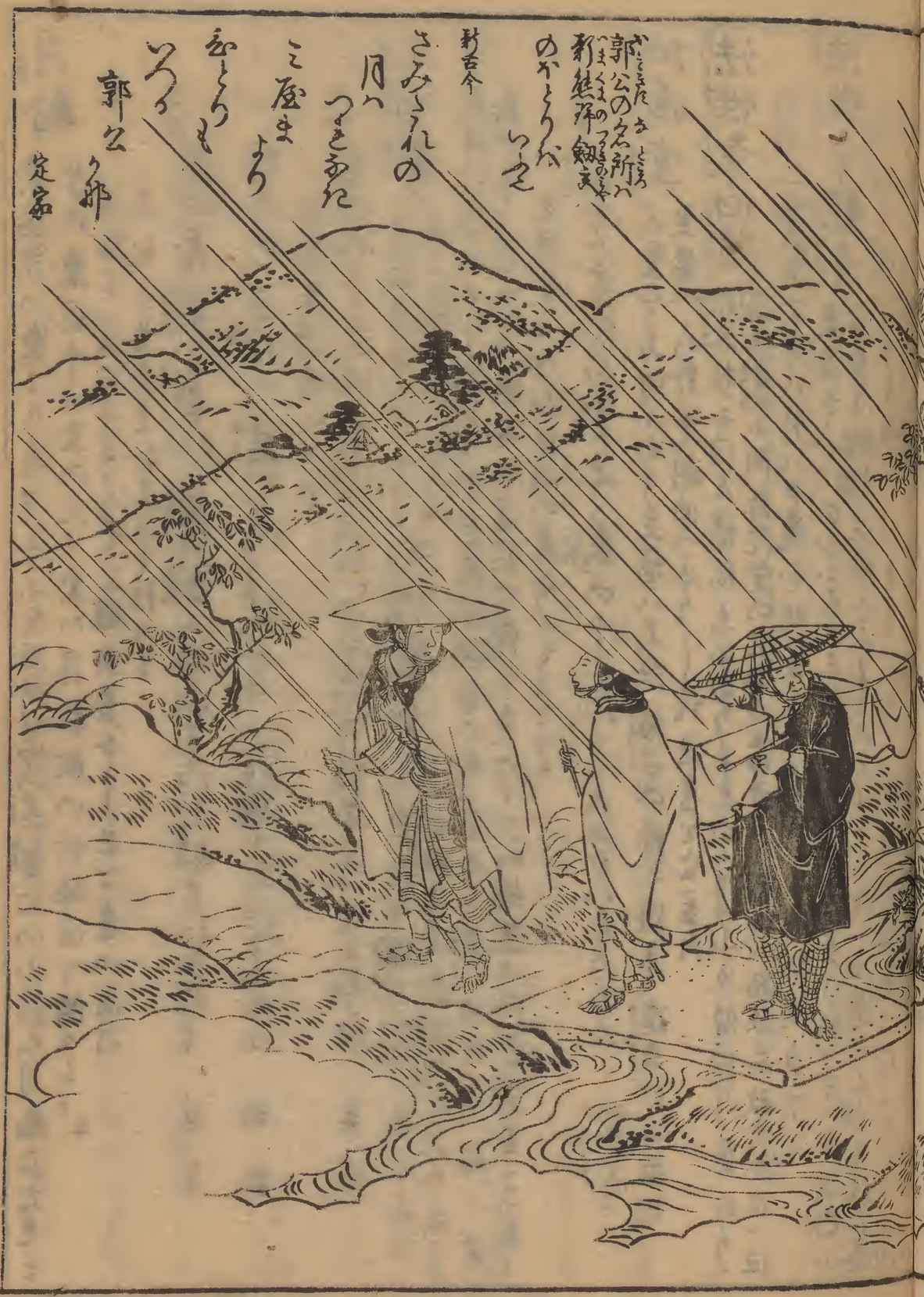
西寺古鐘 東福寺ふあり西寺ハ守敏僧都の寺ゐり

海蔵院 東福寺塔頭之一光格の小ふあり流派ハ虎関師錬自筆の元亨釋書あり

梅雨

白屋黄梅雨
蕭蕭撫枕寒
南山朝暮色
不作出門看

服元喬



月輪 東福寺の東より泉涌寺に至る所をいふ 兼實公の山荘之月輪殿の名に因て号し東福寺四至の文云東は月輪と云ふより西は月輪殿の垣路通を限ると云云

拾遺 春の花盛とおもへども春雨ふればそらもうかれず

同 ひさの日ふ捻乃宿をたづねゆきて月輪殿に入道

玉吟 春のぬさよはの名風このたびは立田もみぢしてぬけ 家隆

光明峯 東福寺方丈の前の谷をいふ 光明峯寺趾 東福寺偃月橋の東にあり 昔宗院の西谷をいふ 光明峯寺殿ともいふ 本尊八今東福常楽庵の剛上にあり 聖一國師年譜云 建長四年二月廿一日 藤丞相道家公薨ず 年六十七 四條院の外祖也 光明峯入乃お拵殿の墓所もそこなり

後拾遺 春ふかみ花のこずえをたづねつつ峯のくもまをいでぬ月かな

地蔵堂 三聖寺お町ふあり立像八尺 坐像一尺 計定朝の作 立像之迎年造立ぜし地蔵尊を安置

法性寺旧蹟 拾芥抄ふ曰九條ふ在里乃東ふあり 忠平公之天暦三年八月八日薨を昭宣公の長男にして 諡號貞信公 島の字ふ阿弥陀堂の名あり 書抄ふ曰九條ふ在里乃東ふあり 忠平公之天暦三年八月八日薨を昭宣公の長男にして 諡號貞信公

法性寺観音 東福寺小門のおふあり 安置ス 檜佛立像二尺 左邊ハ二宝荒神右邊ハ毘沙門堂あり 故ニ 聖一すハ歩脇侍ふ 天頂ふ二十五面あり 仏体ふ二十五菩薩あり 仏体ふ 脇侍ふ 財

式部くの方をえいてゝてゐるふ大きやかなる者のみおそきぞみ
くれどなのれいの着ぞとゝでは山みまつて
時雨をる稲荷の山のもみぢ葉をかりしより色ぞあてゝ
と書そりき式部あれどえひてき者をよひてれくへとえひてまるとゐん

極楽寺 脇士 焔广王 地蔵尊 源州 極楽寺の旧號をつくちみ再建に

同街田中社の南東方ふあり本尊阿弥陀佛 鑑真の紀長二尺計

十王堂 門の外南ふあり本尊ハ焔魔王ゐて十大王 弘法大師の堀しめ給ひし井あり其ふの土をもて十王を彫りまつるとそ

稲荷山 枕草紙ニいふふおもしろきさまを彫んしてのそる

稲荷山 松の彦れ明ケのふ窓よりかすみ渡る嵯峨の聲 家隆

家集

稲荷御神詠 世のそ我越ゆくふ稲荷山雲の寝乃立かくるらん 貴之

続古今

稲荷坂 新勅撰 ちれい稲荷大明神のゆふしめ越ゆ行幸の車 此道を経るとそ田中社もいふへ此道ふあり

順徳院御

ちれむ人の形見とてとゝに浮世ふ乃こる三河の焼

異本應仁記云文明二年醍醐山権僧正満済と武田相おへうちみ目附ふ多賀豊後守高忠ふ従者骨皮左衛門尉道源ふ枠ちり稲荷山へ越社勢ハ金出羽守と示し合せ乃社ふ陣を取ろ伏見木幡藤森二陣源草庭竹田多ハ法性る小路まて目の下ふ見おろしをりたり

大略郷人降参しける

還坂 是稲荷坂の別名之花山法皇清少納言ふど此道より三ツの峯へ詣しまひしとおひしふ入道をかくいふ

同居友ちころいありのうち坂の峯のうへおやしれ出も幸ふ

定家卿文書 云法性寺傍成院ふ伝ふ西ふむらそ少日祝おかくとあくあり

社家略記 云澤蔵貴所稲荷山ふ居して護法形を顕して花を採る祝ふ

真言傳 云稲荷山僧正峯ハ権僧正壹演行ひ給ひし跡とあん申伝ふる

社家説 云今山間ふ社座の跡あり

岩あり 雷岩とおひくむうし社僧ふ

うりえ房崖といふ所ありいまへの

俗房の跡 あるうん

磯比 法性社 磯の名詳あらず

花 花の面ふりをえうさい稲荷山ふ此の法性やろん

○次下ハ稲荷山ふ祝て東の藁山ふ枠卿ものふり栗栖野小肥前ふ祝経て花山ふ至る

稲荷山初午の図

南小栗栖
明智光秀
亡滅旧邸
櫃上
本経寺

光秀ら仔細あって亡ぶし
若い南小栗栖法華林の
側のある山荘を領し
しゃる玉氏そのあり
うえて今の山もへ
寺地ーろ
うう

くん荘の竹の
五一斤ハ従く一斤ハ
為ぬみて為動の
如ーそし具霊の
ろうそう
あくう

勧修寺

氷室池 十五勝

勧修寺
八幡宮

本社
若宮社
神木
社同

三條右大臣
百人一首
名にしおはゞ
あふさかの
関
人もをしもる
名こそ
流て
なをもこひしき
佐夜の中山
三嶋大明神
あべ川
富士山
清見寺
三保の松原

花山稲荷社
良雄断食石
栗栖野
田村将軍塚

巖屋明神社 山科西の山ふもとの居の額巖屋大明神石野宰相基顕卿の筆社記曰系神宮道祖神寛平十年の創建へ主人生土神として例祭九月十六日十一基二基断絶乃遥隔居に當村市川氏の家藏と大石の遺鬼ありて

大石屋舗 岩屋明神の居のまへ小例祭の

近年碑銘を建る其文曰

是故赤穂侯重臣大石良雄所假屋之處也如其忠精光誥既傳而膽炙人口不復贅焉嗚呼百載之下葬人之骨皆已朽矣雖則葬人與骨皆已朽矣乎嵓履葬地而思忠精所激名聲永朽者乎今也鐫石以誌焉願當后之過此者乃有感以従焉矣銘曰焦心飲膽薄言潛鉞死而不死名姓永光建石者爲誰武府人孫八宮部義正同所惠五郎上田正並書之者爲誰伏水人龍公美子玉也干時安永四年乙未冬

田村磨墳 栗栖野村の百姓勘兵衛傳曰坂上田村將軍八贈大納言苅田丸の二男ありて嵯峨天皇弘仁元年正五位下叙し中納言に任し同年九月廿六日大納言兼右大將に任し同二年五月廿七日薨ずる人年五十四勅して從二位を贈ふ(編六十九足調布一百段商布四百九十端米七十斛)桓武帝第八の皇子葛井親王の田村丸の妹全子女御の誕生人役夫二百人延喜式出

所之天皇政を聽給ふ事一日同五月廿七日贈從二位の宣命を給ふ因て墳墓宇治郡栗栖野小葬ふ馬背塚といふ勅ありて甲冑兵杖劔弓箭糒鹽等を調へ塚の内に納しといふ田村將軍現存の如く軀長五尺八寸胸乃厚一尺二寸面の如く背て又長八尺二百一斤輕きこと六十四斤動靜機に應じ髭八黃金の線を絶ざる如く眼八蒼鷹の眸の如し一重きこと四斤輕重ことに怒ると則猛獸も忽斃ると則雛子も早慴く面色屍の色の如くあらざりしと常に紅を到節性を持ひ松多く冬を送て獨翠を武術八世に秘ずく勇威人なり中華の文を學て張良ら武略蕭何ら仁智を兼ぐ或曰坂上田村磨ハ毘沙門天の化身ありて國家を擁護しまふと

野邑山 小野の西小野小町若くて逸をぬしいとそのふるこ皇五帝の妃も漢王周公の妻もまじきおごりをるさだこそうつまとを云ふを徐緒の名ぐひをうつしロふれ有を詠して年十七みそ毋故うしる食ふ海陸の珍あさこのくひぐひを蘭麝をけうしる男故賤くのこそひぐひ女佛石ふ仏をきいみーくうるさひもうくのこるうしうで名ハやぶれて月のむるしくれてこそ庭いあまとてよもぎふいぐらふ去けるまでふるうくれバ文庵秀がれて

著聞集曰

山科大石古蹟

題大石氏故居

忠精聞天久
英風今尚存
月明清露耀
此夕似招魂

巖屋大明神

西山村

醍醐の花見

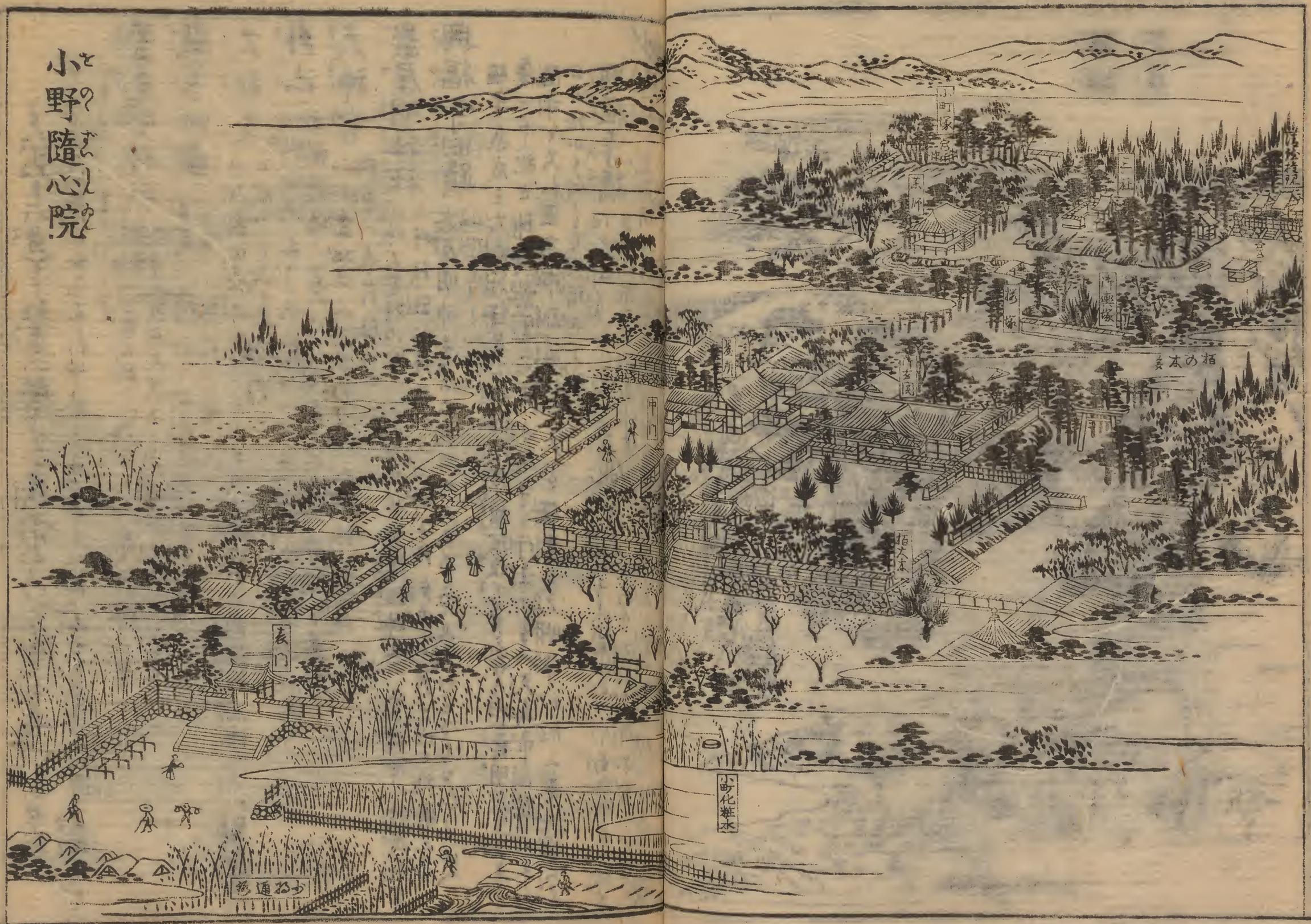
ませさう祇薗々々、甚三盛院の
花盛るらんそれを後の春

後門架

櫻花きゐつくりのむしやう
哉ふわさと名れ立そめん

春厚法師

小野隨心院（をのずいしんゐん）



大宅
岩屋明神

ともいまを舟をうかべて茶の湯をそうして次第ゆくかとみそそふれ舟のうちうたひ小舟小舟こま足みそそろへし云云

萱尾明神社　萱尾の西にあり土人春日神社と云例祭は九月又日いわゆる法界寺の鎮守なり

腰掛地蔵　萱尾の西にあり本尊は行基の作長八尺寺号を法福寺と云

大裡芝　日野村の長又町より大裡芝口迄して今大裡芝と云

外山　日野村にあり土人春日神社と云例祭は九月晦日と

天神宮　小字桑畑にあり土人菅原神社と云

巌屋明神社　山科大宅村にあり祭神二座土人岩屋明神と云

興福寺旧蹟　岩屋明神の鳥居の東二町にあり古へ興福寺の別荘の旧地之土人宮ノ前と云

編年集成云大織冠鎌足公山階寺にて薨日本紀云神護景雲二年山階寺を大和国高市郡厩坂の北に移して興福寺と改むと

興福寺橋　今東海道の中にあり古の階なるの門なり

佛足石　いわゆる仏所ありと今都西京某所にあり大和名所図会拾芥抄曰妙見堂ありて妙見寺と云

大宅村
大宅寺

音羽山　顕注密勘云相坂関より西いと階うち
かすみこめてそこともわかぬ朝ぼらけ
ありあけの月をたよりにゆく舟の
跡は音羽の滝の白糸　貫之

古今　秋風の吹くに日よりも高砂の
尾上の松ぞ音羽山　中務親王

支考　あら神の高き名乃滝やはさらん関のおさもれぞ
五月雨乃頃　為氏

後撰摂津国　流れ来ぬ音羽の里や夜をうらん
秋ふくかりのくはゐに音羽山　頼泰

名寄　郭公いそきなけかし音羽山
牛尾山音羽山をいふ法厳寺と
由緒おなじへし　藤原成房

堀川百首　嶺こえて牛の尾山に来て聞けば
ここも音羽の滝の白糸

二葉集　牛の尾やまだくるまぬ雪乃白雪

布引瀧　牛尾山にあり高さ五十余幅二間許
名所　牛の尾や雪ふりつもる岩の上に布引の滝
勉々関　四手井氏の家に霊方乃処
捜ぐ人民を悩ますと申もの
邇ると信ず延喜二年三月七日宋
おやも憶そう氣色ふく劔をぬく
東清水寺の音羽瀧一日一

牛尾山法巖寺

小山村 白石明神

…境内の芝生少し焼捨ふる今も所々に焼芝ふる所を焼芝といふ 景編の秘密ありて今も香爐の衣を着ふる異僧如然此の地乃瘴氣ふあるを命も危ふくこゝに来ると聞合しそれを服薬として伴をも後水戸光圀卿に薬として仕へ小平次永禅正源久しく此地に住して秀此霊薬の功拡ためしこれより世に広く行はれぬ 即ち如然の墓ふ平次永禅正源久しく此地に住して極罪の者十人を生て大毒ふある薬を用ひものの八人の者へ怨養生し二人ふ即死そ足ふる薬名の上ふ一字ふ様の文字を冠らしめ己が様金属旭光世ふ弘むへ

若宮八幡 村ふあり小山村の生土神ふあり祠乃儀ふ古墳ふあり小山村ふあり東の山の下ふ一の白石ふあり是則白石明神へ

白石明神社 小山村ふあり東祇樹一源統禅師行状ふ禅師肥後の人ふ菊池藤氏ふ祖ふ白石の神祠ふ隣ふ故ふ白石庵ふ号ふ

白石庵 是則白石明神へ所ふあり此地ふ二水記ふ享禄五年八月廿日ふ禅師ふ戊寅の春ふ云々ふ居ふ

蓮如上人墳 山科本願寺舊地の西ふあり寺中廣大ふして今殊ふ早旦已後ふ寺ふ計ふ改落ふ抔本願ふ四五代ふ及んで今日一時ふ滅亡ふ

昭亭記

九月十二夜月おのしろくうそ

大宅や山科ちくく小野山のそうくれの東ふを見て

實如上人墳 山科東野村のおくふあり實如上人ふ本願ふ第九代ふて蓮如上人の八男ふ光教法印権大僧都大永五年二月二日遷化ふ

蓮如上人

山科妙見堂

奉贈日本山科實如老上人
上人德行是問何一箇禪門大丈夫 心裏要容天外善此生渾似竹中虛
杭州鉄冠道人詹仲和

大明正徳八年五月
實藏ふあり大明正徳八年八日
青龍山白河寺 東野村ふあり禅宗ぬ寺ふ屬ぬ本号阿弥陀佛ハ慈覚の
ハ澤土宗那ぬ寺と号ぬ別時寺と号ぬ 死之後二尺餘 後白河の院の宸牌 日帝の石塔あり當ぬ初
三宮明神社 ハ祇ふあり祭神三座 菅丞相合尊 左 稲荷 右 八幡ふ所乃
阿弥陀寺 三宮本地堂之本号阿弥陀佛 脇士 毘沙門不動尉 祖ハ大僧都 賴音坊寛永年中の建立之 後水帝の勅願所と
花山稲荷社 陸奥花山ふあり世の人大石稲荷と
梅本寺 花山退分の寺ふあり禅宗曹洞中興ハ加州金澤大乘寺
本尊十一面観音 四十一世祖ぬ尚ふ長二尺脇士ハ愛染不動ふ本尊を及撰の記まと号ぬる本
ハ花山帝の愛妃弘徽殿の好ぬ空しくあらせ給ふ佛ぬ
怨數深ふ依おまりなり故ふ沿世二年みて寛ぬ二年六月廿二日聖壽十九文
みして帝位とおりさせ給ふ也ぬ花ふ寺ふ至て佛髪波羅除しぬ法諱を入覺
と改めぬ花ふしばらく御ぬ其後紙所ぬ推記乃靈夢を當ぬ感内
乃近國ふて靈佛乃観世音
西國巡礼の始之所を選ぬ其時自身
て當寺の始祖佛眼上人
故ふ及撰の記まと号ぬる本

仁和寺の法師ざるに水
を入拝んで極楽を
高良ぶどうなり
むがうそのふくろう
眼道心猪かどの
村里みそくつく
ろのうくべーそ
のうそ向上人うそ
事多しおーの
ふくろも
先達のなり
やーしそ
勤めぬ
法師も
数珠ー
うらら

新宮参り
句宮の
のり
権禰宜も
ふる
なふ
ぬうれ
ふ
日へくれぬ
くり

権僧正永縁

阿弥陀堂　小花山ふあり本名阿弥陀堂の本尊をいふ一説ふハ重盛公燈籠堂本尊をいふ
元慶寺　日所阿弥陀堂東小一町計ふあり初メハ天台宗迎年禅宗と改む
本尊薬師佛　妙厳和尚天明三年再建あり
花山法皇像　自ら机共ふ脇楹ふ安置ス　坐像七寸僧正遍昭の作　阿弥陀佛　毘沙門天　運慶の作　僧正遍昭像　自作坐像　一尺六寸
放草創紀えを配して元慶寺ハ陽成帝ふ仕願ふて貞観十一年ふ仁明帝
花山僧正　僧正遍昭俗姓ハ侍良安世ふ男ふて宗貞と号ス仁明帝
乃近臣ふて　其父ハ大納言ふ至ル　昌ふ嘉祥三年二月帝崩シ
其父墓ふこもりて人ぞして比叡山ふ登リ　覚の室ふ入て台教
ふ学ひ　勅ありて總持院ふおゐて三部の灌頂を座主圓珍ふ受け
三年ふ僧正とある仁和帝遍昭が労徳ふ感重ねて封百戸ふ加ふ
乃左京ふ第ふ移る　寛平二年正月十九日入寂を已上元亨釋書
拾遺　まそいといてもこゝ花ふちるとふんなるの春もうる　僧正遍昭
花山法皇　人皇六十五代の帝諱ハ師貞冷泉第一の皇子寛和二年当寺ふ入て厳
飾ふ給ふ又花山院とも号ス　ふ入覚法皇又花山ふ幸ふ
寛弘五年二月八日崩ス　寿齢四十一歳
著聞集云さそも昨門世をそむきふしろもなきふのおもひいろふかくふ
そめてふかきやまふこもりゐてふかきこゝろをしるひとぞなき
遍昭墳　元慶寺の西二町そり破塚のめりふ　猴樹数株あり
其外さんとそうこと
東山寺　元慶寺の奥ふあり禅宗本尊釋迦佛坐像二尺五寸開基大圓宝
鑑國師拾芥抄ふ東山寺華と号ス
神無森　追分の南半町計街道のゐ山ふ北諸羽明神の神籬所ふあり
盛衰記ふ會坂や一村松の木の間ふて本幡の里と俗ふ
醍醐落ふ
蟬丸塔　土人のいふ称ふ蟬堂の後ふあり実記詳ふあらず
杜風ふあひく渉芽のをそこと
杜乃風　斑竹
同　世中いとそもうくてもれてこと
四宮河原　山科安祥ふ村のゐり仁明帝第四宮の旧蹟ふて
名葉　四のこゝろせよつゝくめてふ
ぬれてこそ四のえにほふ春ふあれ
諸葉山　四宮にほふの小こあり土人柳蘭と諸羽社あり
六帖　ほそとそのる葉れふかくるもそこん
蟬丸　小町　順徳院
喜撰

北花山

東山寺

元慶寺

梅本寺

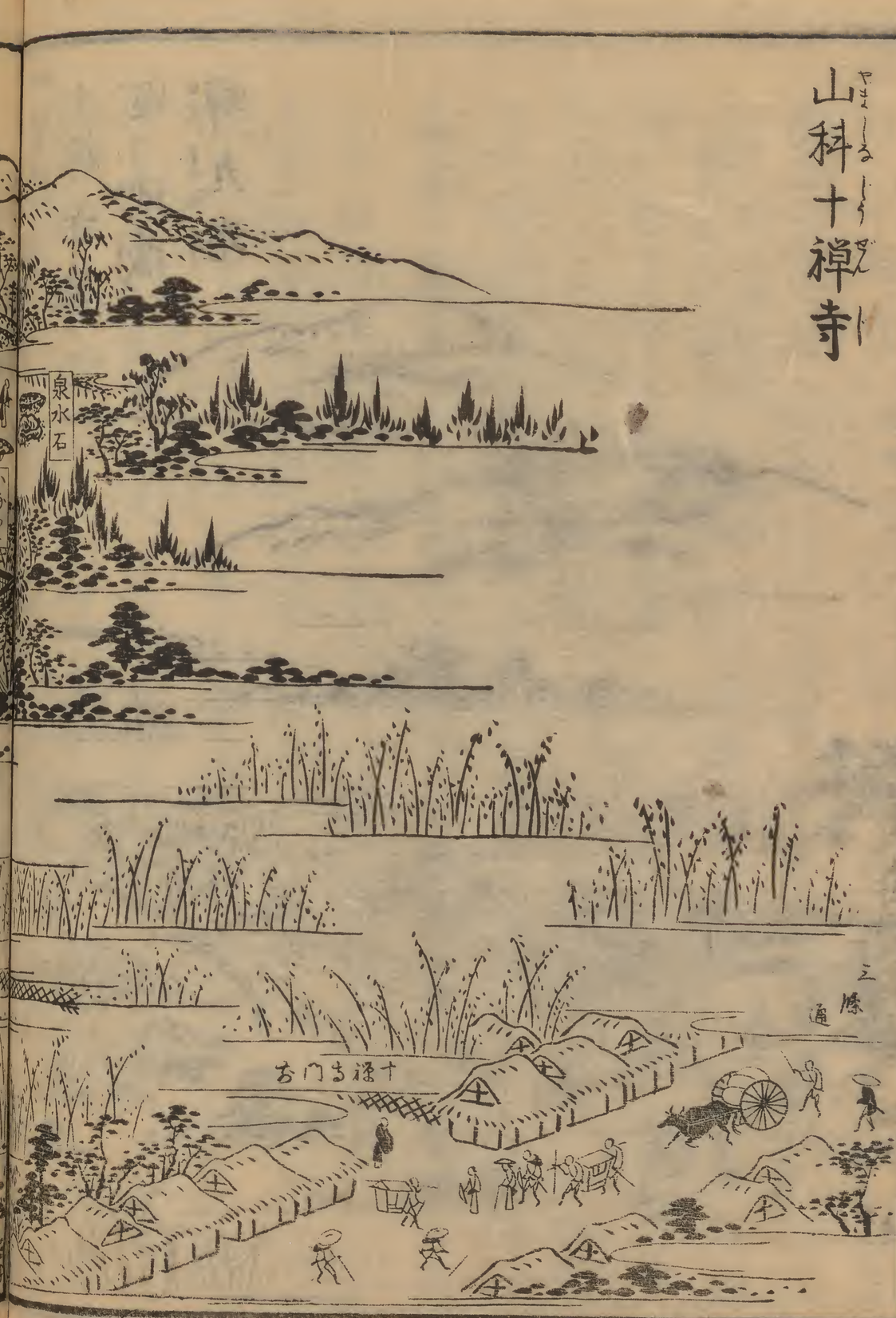
楊柳山十禅寺 山科郷四宮村ふあり 天台宗みて本尊ハ聖観音 立像長二尺六寸

徳大子の御祀 勅封舊地ハ人康親王の御所之山階宮と称し 仁明三人皇第四の皇子四品弾正尹山科宮と号し 貞観元年五月入道しるしは十四年薨去と 厥后御所跡寺と 此親王跡廻祖父そんよう久しく荒廃ふ 御法師異相乃道人みて牛ふ騎 堂舎ハ人皇百中興して此ふ住せり 襤褸跡着しふ

十代明正院霊夢跡感想しふ 再営ありて二重乃高閣を建らまさんを得月墓とふづく上皇おりく行幸ありて山水跡愛しまふ閣おふ短冊石といふあり短冊跡敷るべき形之上皇渡御の時鳳輦の代ふ石上跡沸成おこせらんしと少へ 永極今出川の東ふあり 別宮跡さふ引極しふ 御宸筆の額あり得月墓と書ル閣中乃本尊阿弥陀如来ハ後陽成院の勅作と其外 後水尾院 明正院 東福門院 常憲院殿等神霊を安置たり

神鑑あり鎮守ハ縮荷社天満宮跡勧請ル

山科十禅寺



奴茶屋

舜福

廂鬢と
空ふろ
古むし
ぬけ巾
古着、落し
茶屋の
名めよ

地藏寺

人康親王奮蹟

十禪寺の傍石橋の西小祠の中に泉水しの字の地あり此所
假山泉水の地なり二代實錄曰貞觀
仲秋物語云山階のせんそうふまうでゝ年
ざはうはゐにだよひ宮ふ渡おはしまして
おはしのまうけせさ勢ふ人さるふかの
ふさうる紙やうくきこゝ糸れおそうの
れのしろた石まして
乃おのこそみそんさうしを
てこゝいもんさうしてそうふつうの
風しうりいるいまうれてそうぬけ石
旧記云け石ハ清和帝の行宇貞観
怪んて現るふけ石之同十八年三月廿
へつ伊勢物語ふあうしてそのつるし
後醍醐帝愛しゆへ時ふ藝別の宇
切れうけ紙とし勅許ありて観應二
年の冬勅勘を得て安藝國ふ左遷
をたつて石城中ふうつそうふ
旧國福王寺ふうつそ好ふうつそうふ
あの川名ふ其ゆけ石製の城ふ

定家卿湯物
山科禅師親王ハ則
仲春紀行千里の渓ふ光燈おあり人
五年小平安城ふ移し其後二條后愛し久
とそんよめうる定家卿湯物
山科禅師親王ハ則人康親王おり人
仲春紀行千里の渓ふ光燈おあり人
五年小平安城ふ移し其後二條后愛し久
旧記云け石ハ清和帝の行宇貞観
怪んて現るふけ石之同十八年三月廿
へつ伊勢物語ふあうしてそのつるし
後醍醐帝愛しゆへ時ふ藝別の宇
切れうけ紙とし勅許ありて観應二
年の冬勅勘を得て安藝國ふ左遷
をたつて石城中ふうつそうふ
旧國福王寺ふうつそ好ふうつそうふ
あの川名ふ其ゆけ石製の城ふ

斑鳩寺

業平谷　土人云安祥寺の小ふあり今昔物語云右近中將在原業平ここに人
ある人の娘ふ容顏艶麗みて世ふ類なくありと聞て密に
盜ひてゐて其家の北の方ふ告ず其娘を具して行て
倉ある山邊に娘を置て將たかと殺てなといひ後乃方ふ押遣て起こりしほ
ど雷電霹靂して
雨しく
霽ぬ

奴茶店　大津街道瀨谷越乃別名
ふ物ふあり山家の名生ふ片岡里を湯として者
より八町許ふ閑居に具須ふ諸國乃兵話ふて街道も往來の人稀ふ
虛ふ乘して盜賊多くこふ越て
うたのびど乞爺孫夢しかり盜人を捕て討亡しん家もふりりく
所ふ茶店放遣て義ふハ兵衛放爺
を送て遣て真遺風今ふありて
を傳世片岡流の射術を學人者を今ふ至つても其由緣放墓ふ

地藏寺　山科竹ヶ鼻ふあり禪宗みして開基ハ鐘山曉淨師中興ハ播州細
川龍門寺の盤珪和尚ふて具芳徳世の初所之孫半中
小寂ふ盤珪佛智禪師
腰濟
本尊地藏尊
護國寺　同所西御ふあり法華宗ふて開基ハ日所聖人ふ屬ふ一蹤の學校ふ
阿彌陀堂　同所北方ふあり